



株式会社仁コーポレーション
取締役会長

仁泉浩氏

団塊の世代の、 特に男性を意識した事業を展開

にいずみひろし

福岡県福岡市生まれ。大学を卒業後、金融機関、アパレルメーカー海外事業部、社会福祉施設での業務に従事。福岡県社会福祉施設経営者協議会協議員および組織強化委員、全国厚生事業団体連絡協議会協議員、福岡県ホームレス自立支援推進協議会協議員などを歴任。2009年6月、福岡市博多区にデイサービスやぐらもんを開設。社会福祉主事、福祉施設士、福祉サービス第三者評価調査者指導者。

時代背景を敏感に察知し、事業化していく

仁泉氏はかつて、アパレル業界の海外事業本部九州地区担当マネージャーを務めていたが、社会福祉施設設立の経営者の一人として参加したことがきっかけで福祉業界へ足を踏み入れた。福岡県婦人保護・救護施設協議会会長在任時（1995～2005年）には、アルコール依存症患者・覚せい剤依存症患者・ホームレスの自立支援、DV被害者の救護施設として新しいビジネスモデルを確立した。そして、2009年6月、福岡市博多区にデイサービスやぐらもん（以下、やぐらもん）を開設した。

「ホームレスや依存症の方たちの中には、50代の男性で单身の方が多くいらっしゃいました。その方たちも、いずれは介護が必要になります。長い目で見て、そういった方たちを受け入れていきたいと思ったのが、介護の世界に入ったきっかけです」

もともと、やぐらもんを開設する以前は、医療法人がデイケアを運営していた。しかし、点在する2ヶ所の医療の経営に専念すべく、福祉系事業で成功していた仁泉

氏を見込んだ院長が、経営の立て直しを依頼する形でやぐらもんはスタートした。これによって院長は医療に専念でき、仁泉氏は「本格的なレクリエーションを提供する」という特徴を持つデイサービスを運営していくこととなった。

現在は2ヶ所の事業所を運営し、平成24年5月には新たな事業所をオープン予定である。「新しくオープンする事業所では団塊の世代を対象にしていこうと考えています」と仁泉氏。ほかにも、オープンカーを使ったプロモーションについても考えを巡らせている。

「団塊の世代の方、特に男性には、ダットサンSR311というオープンカーに憧れた方がたくさんいます。新しい事業所では、ドライブなどで博多区内を走行することで『SR311に乗れるハイカラなデイサービス』という宣伝にもなると考えています。そのために真っ赤なダットサンを北米や豪州で1年かけて探しました（笑）」

さまざまな活動で福祉を支える

仁泉氏の活動は、やぐらもんの運営だけでなく、新しくデイサービスを開設する方を対象に事業所のプロデュースも行っている。プロデュース1号店の「デイサービスBlue」（埼玉県）は、平成23年10月5日にオープンしたばかりだ。

「デイサービスBlueはプロデュース1号店です。このデイサービスBlueも団塊の世代を見据え、特に男性が満足できるようなものづくりが大事だと考えています。経営者の方は音楽関係のマネジメントやインポートアパレルが本業ということもあり、洗練された音楽やインポート家具で統一されたスタイリッシュな雰囲気づくりをしています」

また、やぐらもんブランドののれん分け事業として、福岡市内に新事業所を開設予定である。このプロデュ

ースとのれん分けの違いについて、仁泉氏は相談者の意向を尊重したいと言う。

「経営者の想いを実現させて、強みを発揮できるようなデイサービスを展開するのがプロデュースと考え、あえて『やぐらもん』の屋号は使っていません。逆に、すでに浸透している『やぐらもん』という屋号を生かせる場合は、のれん分けという形をとります。経営者の想いを大事にしていきたいと思います」

ほかにも、公益通報社外窓口を設置しているコンプライアンス事業、キャリア形成・キャリアパス策定を援助するキャリアデザイン事業、小学校の受験対策を行う幼児教育事業など、やぐらもんの運営をはじめとした介護事業にとどまらない活動は多岐にわたる。さまざまな活動で福祉を支えている仁泉氏の勢いは今後も止まらない。